

たまごで生まれてくる動物を、なんというの



たまごで生まれるのは^{らんせいどうぶつ}卵生動物、親と似た形の赤ちゃん
で生まれるのは^{たいせいどうぶつ}胎生動物とよばれているよ。

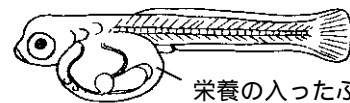
卵生動物のほかに、卵胎生動物とよばれるものもある

メダカやニワトリのたまごは、親が産んだ後、育てないので、子魚やひよこになるまでに必要な栄養分が、たまごの中に全部用意されています。たまごは、オスの^{せいし}精子と結びつき、^{じゅせいらん}受精卵となり、しばらくするとふ化します。生まれた子魚やひよこは、ふ化したばかりの1～2日ぐらいいは、何も食べません。すぐえさがとれなくてもすごせるように、その分の^{えいよう}栄養も、初めからたまごに用意されているからです。

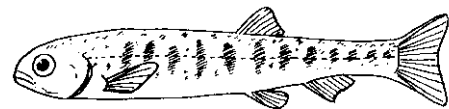
このような動物を、卵生動物といいます。

マムシやタニシ、カメレオンの一種は、たまごが母親の体内でふ化し、少し育った子へビや子貝など、親と同じ姿になって、生まれ出てきます。

こんな動物を、^{らんたいせいどうぶつ}卵胎生動物といいます。



ふ化したばかりのサケの子魚



少し成長したサケ

胎生動物は、ほとんどが、ほ乳動物

人間やイヌなどは、母親の体内で^{らんし}卵子と精子が結びついた受精卵が、母親のたいばんとへそのおを通して栄養をもらいながら成長します。そして、親と同じような形の赤ちゃんが生まれてきます。これを胎生動物といいます。ほとんどが、^{ちち}乳をのんで育つので、ほ^{にゅうどうぶつ}乳動物とよばれます。

カモノハシは、たまごを産みますが、^{ふくぶ}腹部からにじみ出る乳で子どもを育てます。体のつくり全体から、ほ乳動物に分類されていますが、卵生動物から胎生動物へ変化する中間の動物といえます。